

知恵袋（その2）

地域の高齢者・通学者にグループインタビューを実施し、生活に密着したニーズを把握、運行計画に結びつける ～やまびこ号～（東京都檜原村）

- ・村内の人口数百人の地区に10人乗りのコミュニティバス「やまびこ号」の実証運行を開始するにあたり、主要な利用者と想定される高齢者と通学児童の母親を対象に、地域でグループインタビューを行うことで、日常生活に内在する移動ニーズを把握している。
- ・グループインタビューは、本音を語りやすい人数（少人数）手法（会話型）とし、地域の住民のニーズを把握することに成功している。

少人数のグループインタビューで本音を聞く

- ・檜原村（人口約2,700人、高齢化率約42%）では、平成19年度に10人乗りのコミュニティバス「やまびこ号」の実証運行を開始するにあたり、平成18年度に村民グループインタビュー、平成19年度には、運行導入地区2地区の住民を対象としたグループインタビューを実施し、利用者のニーズを把握している。
- ・グループインタビューでは、高齢者、通学児童の母親を対象に、日常の外出行動、外出の移動で困ること、路線バス等の利用状況と問題点、新しい交通へのニーズについてなどを調査している。
- ・グループの人数は12名を限度とし、少人数に絞ることで、なるべく本音の意見を聞き取りやすくするように配慮し、協力したコンサルタントのメンバーが進行役となっている。これは、行政担当者の人数が少ないこともあるが、顔見知りの行政担当者が同席しない方が本音を言える、という配慮からでもある。



写真 3-2 10人乗りの「やまびこ号」

生活に密着した移動への要望を聞ける

- ・グループインタビューの結果をみると、様々な意見があり、とりわけ、日常の生活に密着した要望を把握することができており、運行時間、運行本数などの検討にあたって価値のある基礎資料となる。
- ・また、新たな地域交通の取組みが、高齢者等の外出機会を増やすことになり、生活の質の向上をもたらす役割を果たすことにもつながっている。

グループインタビューによる主な意見

<高齢者の買い物について>

「自分で欲しいものがあるときはバスで出かける。多いときは週に2～3回、五日市のいなげやなどに行く」

「移動販売車は週に2～3回来るので利用している」

<通院について>

「月に1度、檜原診療所に行く」

「五日市に月1～2回通っている。ついでに買い物をして帰ってきたりする」

<通学の状況：主婦からの回答>

「(小中学生)バス停まで迎えに行けるときは行くようにしている。」

<新しい交通に対する意見>

「外出回数が増える。利用したい。出たくても我慢して、3つも4つも用事をためこんでいる。出かけた日に時計を見ながら駆け足で、銀行や郵便局、買い物などあちこちまわるのはすごく大変」

<事前の調査結果に基づき、以下のように「やまびこ号」の運行が実施されている。>

) 運行地区・路線

- ・ 交通不便地域を解消するための路線の新設：民間の交通事業者が運行している現行の路線バスはバス停までの交通が不便で、ある程度の需要が見込め、通年走行可能な道路条件に該当する神戸地区(運行距離約1.7km)と藤倉地区(運行距離約8.6km)で「やまびこ号」を先行導入し、実証運行を開始。
- ・ 集落内はできるだけ多くの停留所を設置しているほか、集落内は停留所以外でも乗降できるようにしている。(フリー乗降制)

) 運行ダイヤなど

- ・ 運行時間帯・ダイヤは、路線バスの発車・到着の時刻に合わせた定時運行。
- ・ 通学時間帯、通院・買物に出かける時間帯など住民のニーズに基づいて、固定便と予約方式とを併用した運行方法。
- ・ 運賃の種類は、普通旅客運賃と回数旅客運賃。普通旅客運賃は、大人も子どもも1回100円(未就学児は無料)
- ・ 割引率の高い乗車券や回数券、定期券の導入：回数旅客運賃は1,000円で11枚。